

朗読者・絵本専門士の派遣レポート Vol.3

京都大学キッズコミュニティ KuSuKuで、 講座修了生が読みきかせ会を開催

文字・活字文化推進機構では読書推進の一環として、全国の文学館・美術館・博物館などで開催されるイベントへの朗読者・絵本専門士の派遣をお手伝いさせていただいております。

1月6日に京都大学キッズコミュニティ KuSuKuにて、アカデミックプログラムの一環として「山根基世の朗読指導者養成講座」第2期修了生・佐藤千津さんが絵本の読み聞かせを開催しました。35名の定員が事前予約で満員となる大盛況で、小学1～6年生の子どもたちが、佐藤さんの読み聞かせやミニ絵本作りワークショップを楽しみました。



当日の読みきかせの様子

【朗読者・佐藤千津さんの選書】

『ふうふうぼんぼんぼん』

(水谷章三文/杉浦範茂絵 第一法規)

『たれてる』(鈴木のりたけ ポプラ社)

『100万回生きたねこ』

(佐野洋子 講談社)

『ゴリラくん』

(ひこまま いつついろえほん社)

『すき』

(トメク・ボガッキー作/木坂涼訳 セーラー出版)

▶朗読者・佐藤千津さんの感想・コメント

KuSuKuで実施されている知的好奇心に応えるアカデミックプログラム。そのひとつに絵本の読み聞かせが取り上げられたことが、まずうれしかったです。

前半30分で3冊を読みました。『ふうふうぼんぼんぼん(京の昔話)』と『たれてる』で心を通わせ、『100万回生きたねこ』をじっくり聴いてもらいました。1年から6年までが対象なので、理解と興味を考えての選書です。

後半は、A4サイズの紙一枚で作った「ぼわっと広がるミニ絵本」を披露し、子どもたちにもミニ絵本に自由に描いてもらいました。カブトムシ・カメラ・友だちの顔、それぞれ関心あるものが絵本になりました。誰かに読んであげるのでしょ。

絵本制作の合間には『ゴリラくん』と『すき』の絵本も読みました。写真(右)はその時のもの。読み手も聞き手もいつしかくつろいでいる様子が、個人的に結構好きです。

▶KuSuKuご担当者様からのメッセージ

最初の絵本『ふうふうぼんぼんぼん』では、佐藤先生のツボを心得た読みに、子どもたちは古き良き京都の世界にいつの間にか引き込まれていました。その後は子どもたちへの声掛け中心の『たれてる』、大きな真実に気が付いてしまう『100万回生きた猫』など全5話を読み聞かせさせていただきました。緩急をつけた読み聞かせに子どもたちは夢中になり、しっかりと集中したり、笑顔になったり、とても心が動いた様子でした。

最後のワークでは、子どもたちは自分だけの世界を表現した絵本のシナリオに思いを巡らせ、ペンを走らせました。

子どもたちからは口々に「また来てほしい！」と声が上がりました。

朗読者・絵本専門士の派遣事業では、2024年度は最大20館への派遣を予定しております。企画を検討されているご担当者様からのお問い合わせ・ご応募をお待ちしております。

詳しくはこちら！▶



<https://bit.ly/3z0J61V>